

学友会総務委員長決定

任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が1月5日に行われ、第4学年 橋本麻利江さんが総投票数485票中439票(90.5%)の信任票を獲得し、4月1日付で平成22年度学友会総務委員長に就任することが決定しました。



歯科衛生学科卒業研究発表会

11月4日、福岡医療短期大学307教室で歯科衛生学科3学年の卒業研究発表会が行われました。約4ヶ月間のテーマに沿った実験・調査等により、発表資料もグループごとに趣向を凝らしたものとなりました。



研究の成果を発表する学生

餅つき

12月28日、本館学生食堂南側の庭園にて恒例の「餅つき」が行われました。

餅つきには役員や教職員約200人が参加し、つきたてのお餅を入れたぜんざいなどがふるまわれ、1年を振り返りながら懇親を深めていました。



サンシャインプラザ・サンシャインシティ「クリスマス・忘年会」

12月5日、介護老人福祉施設サンシャインプラザにて「忘年会」が、また、12月20日には隣接の介護老人保健施設サンシャインシティにて「クリスマス・忘年会」が開催されました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者やご家族、職員ら共々大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



サンシャインプラザ「忘年会」



サンシャインシティ「クリスマス・忘年会」

保護者からのメッセージ FROM PARENTS



宮崎 宏延

(福岡歯科大学)

デンタルデフレスパイラル

ここ数年、受験生の歯科離れが進んでいたが、つい平成21年度は、私立大学中11校で定員割れを招いた。歯科を取り巻く経済環境は悪化をたどり、投資と回収を考えた時、国民目線では夢の無い構造不況業種と映っているようだ。

我が家の子供三人は、ともに歯科医師を志しており由々しき状況にあるが、30年前、自身の大学卒業時を思うと隔世の感がある。当時、我々は潤沢な医療費財源に支えられ、歯科疾患を抱える健常者を効率的に治療することに専念していたが、時代の変化に目を反らして来たのではないかと。少子高齢化が進む中で、修復から予防へとシフトしていけば、従来の対象者は減少して行き、縮小するパイを増加する歯科医師で分け合うことを考えれば当然の結果である。

そこで採られた対策はというと、分母の増加を押さえる為に国家試験という出口を絞っただけである。

振り返ってみても、自分の不勉強もあるが歯科医療のエリアは2割ぐらいいか増えていないように見え、医科歯

科領域問題もあって口腔外科や麻酔分野では縮小した感もある。近年、保険診療への新技術の導入も殆ど無く、高齢化の進む中で歯科医療の必要性が叫ばれながら、歯科医療費のパイは縮小して行く。

医科は、医療費改定は同じく厳しいものの、新技術の導入や高齢化に伴う自然増それに保健及び介護(福祉)を統合してみると堅調な伸びを示している。

妙案は浮かばないが、歴史を振り返ってみても、不況からの脱出には新しい市場開発が有効である。「ワーキングプア」や「生き残り」などと後ろ向きな言葉が囁かれるが、歯科医師という国家資格は思っている以上に間口の広いものである。せっかく若い豊富な人材があるのだから、従前と変わらぬような歯科医師を輩出するのでなく、歯科のグラウンドを拡げるような学生教育・卒業後研修が必要と思われる。

かの進化論を唱えたダーウィンは次の言葉を遺している。「強い者が生き残るのではなく、賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは変化出来るものである。」



石橋 正邦

(福岡医療短期大学)

感謝の気持ちをもって

私は今から30数年前、当時歯科大1期生が4学年の頃から4年間程、現在の医療短大の教室で講義の手伝いや病院実習の助手として大学に勤務しておりました。それからなんと年月の経つのが早いものか、今私の娘が医療短期大学歯科衛生学科3年生として在学しており、順調に行けば来春は卒業です。今は大学病院での臨床実習を終えたばかりで、至ってノンビリしています。今後は卒業試験、国家試験と正月返上で猛勉強し、全員合格を目指して頑張っておきたいものです。

さて、近年高齢社会を迎え、歯科保健、医療、福祉をめぐる環境は急速に変化しています。歯科疾患の状況、歯科医療の内容や目標は社会の変化とともに変わらざるべきで、従来型のう蝕や歯周病の治療・予防に加え、高齢者向けの口腔ケア、食べ物の嚥下法、栄養管理など、

それに応じての対応も常に変化してゆかねばなりません。当学園は正に、そのニーズに逸早く取組み、役員、教職員の方々の大変な苦勞、努力によって日本の短大歯科衛生学科では初めてのホームヘルパー2級の資格が取得でき、学園内に介護老人保健施設、特別養護老人ホームを併せ持つ、口腔介護実習を行う大学は他にありません。“学生の皆さん”このすばらしい環境の中で、より高度な知識と技術を十分に培い、この環境を創設、整備して頂いた学園の教職員の方々に常に感謝の気持ちを忘れず、誇りを持って学生生活を謳歌してください。

今後我々歯科医師も、歯科衛生士学校が3年制になった以上は、業務内容を改善し、今まで以上にプロの歯科医療従事者として、やりがいを持たせる様にすべきだと考えます。